【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立城東中学校

1　前年度 評価結果の概要	・教師と生徒との関係は良好で、良い雰囲気の中で学校生活を送ることができている。授業については、教師の方をしっかりと見て受けており、授業改善を図りながら学習指導に取り組んだと感じている教師が多かった。 ・設定したそれぞれの成果指標については、学力の向上・心の教育・働き方改革について達成することができた。学校評議員会においても委員の方々からは、学校の取組に賛同され高い評価を得ることができた。 ・項目によっては、生徒の評価と保護者の評価に差があるため、学校の取組や生徒の様子を保護者に更に知らせていくことが必要と考える。
2　学校教育目標	**・夢実現◇成長の根幹づくり　～尊重の根を広げ、挑戦の幹を高める　やがて枝が伸び、芽が出て花が咲く～**
3　本年度の重点目標	①　基礎・基本と学びの交流を大切にした授業づくりによる「学力の向上」(質の高い教育をみんなに)　②　集団づくりによる不登校の未然防止　③　「出番」、「役割」、「承認」、温かな雰囲気による問題行動の未然防止　④　信頼関係の構築(生徒・教職員・保護者・地域連携・小中連携)　⑤　健康・体力・安全教育の推進(交通安全対策の実施)　⑥　道徳教育、進路・キャリア教育の充実(進路実現１００%) ⑦　学校課題に応じた教職員研修の充実

4　重点取組内容・成果指標　　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○研究授業や講師招聘による研修会を通して授業改善に取り組んだ教師80%以上 ○県の学習状況調査において、各教科で県平均以上の通過率を目指す。 ○「毎日の授業に一生懸命に取り組んでいる。また、計画的に家庭学習に取り組んでいる。」と回答した生徒80%以上	・校内研修での研究授業や講師招聘による研修会などを通して，授業改善に努める。 ・計画的に課題を与え、家庭学習に取り組ませる。定期テストなどでは、早めに出題範囲を提示し、計画的な学習を進めさせる。	A	・アンケートで「研修を通して、指導方法の改善や教材の工夫に取り組んだ」と回答した職員は100%で、授業改善に全職員で取り組むことができた。 ・「毎日の授業に一生懸命に取り組んでいる。また、計画的に家庭学習に取り組んでいる。」と回答した生徒の割合がが90%弱に達した。ただ、保護者アンケートではその頑張りが十分に評価されていない状況が見て取れる。 ・県の学習状況調査において、各教科で概ね県平均以上の通過率であった。	B	・アンケートの結果は肯定的な意見が多く、全体的に上手くいっていると思う。 ・授業参観では、先生方の指導に熱意が感じられた。また、生徒たちも真剣な表情で取り組んでいて良かった。 ・デジタル教科書の導入や学習者用端末の積極的活用などGIGAスクール構想に伴う先生方の負担増が心配。 ・分かりやすい授業への取組は、校内研究会のさらなる充実の必要性を感じる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自己肯定感を高め、自他を尊重できる生徒を育てる。 ○アンケートに「学校生活は楽しい」と回答した生徒90%以上	・特別の教科道徳の実践を道徳的な資質・能力の向上のみならず、学びに向かう力や思考力・判断力・表現力を培う指導技術向上のための基幹的な取り組みと位置付ける。 ・差別の現実に深く学びながら、差別を見逃さず、差別を許さない、差別と闘うことのできる生徒を全教科・全領域で育てる。 ・人権・同和教育の授業実践、人権講話、人権作文・人権放送などに取り組み、身の回りにある課題に気付きあい、その解決に取り組むことにより人権意識を高める。	A	・各学年で、学校行事や総合学習等に関連した教材を選別し、計画的に道徳の授業を行った。また、校内研修や佐賀市道徳部会での研究授業を通して、道徳科の授業力の向上に努めた。 ・「学校生活は楽しい」「先生方はいじめ防止に向けて積極的に取り組んでいる」と答えた生徒はどちらも90%以上であった。 ・各学年で部落学習を始めとした人権学習や放送による人権講話、「城東人権デー」でのいじめゼロ宣言の唱和などの取組によって、生徒の人権感覚を育むことができた。	A	・93%の生徒が楽しいと回答していることが素晴らしい。しかし、7%の生徒が楽しくないと回答しているため、その原因の把握が大切。すべて100%は困難だが、楽しくないと回答した生徒への支援の手立てを考えることでよりよくなっていくのではないかと思う。 ・アンケートへの回答が、保護者、生徒ともに肯定的なものが多く、評価できる。 ・学校は楽しいと回答している生徒が93%、保護者が91%というアンケートの結果から、学校の取組を評価することができ
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）に向けて学校は積極的に取り組んでいると思うと回答した生徒90%以上 ○気になる生徒の情報共有及びSCやSSWとの連携を図ることができていると思うと回答した教師80%以上	・月１回の生活アンケートをもとに、生徒の実態把握に努める。 ・毎月初めに「いじめ・いのちを考える日」を設定し、いじめ0宣言の唱和を行う。 ・SCやSSWと連携し、迅速にケース会議を実施する。 ・毎週木曜日の教育相談部会を充実させる。 ・定期教育相談（年2回）を実施する。 QUテストの実施と研修会の実施。	A	・いじめのない学年・学級づくりに向けて学校は積極的に取り組んでいると思うと回答した生徒は90%であった。 ・月１回の生活アンケート及び年3回の教育相談期間だけでなく、日頃から生徒との対話や交換ノートなどでいじめの早期発見に努めた。 ・週1回の生活指導部会や教育相談部会で気になる生徒については情報交換・共通理解を行い、職員の周知に努めた。 ・「SCやSSWと連携できた」と回答した職員は100%であった。	A	・いじめ防止対策委員会にも所属しているが、小さな事案まで追求して対策をとられていると感じる。 ・いじめを完全に0（ゼロ）にするという気持ちで取り組んでいれば、必ず0（ゼロ）にできると思っている。継続した取組をお願いしたい。学校の取組や学校の様子はアンケート結果からもかなり評価できる。 ・不登校やいじめ問題、SNS等によるトラブルなど、問題は多岐に渡っており、教員の対応が大変だろうと感じる。学校、家庭、地域の連携をより図っていく必要がある。
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒85%以上	・学校教育活動のあらゆる場面において、生徒に出番、役割を与え、その都度、教師からの承認、賞賛を行っていく。 ・学校教育目標でもある「夢実現」をキーワードとして学校教育全体で「夢」を持つことの大切さを意識させる。 ・キャリア・パスポートなどを有効に活用し、進路指導・キャリア教育の計画的実践を図る。 ・社会的・職業的自立に向けて基礎的・汎用的能力を育成するために各学年で発達段階に応じた教育活動を行う。 ・進路に関する諸資料の収集や情報の提供を学校全体で連携して行う。	B	・「先生は自分のよいところを認めてくれている」と回答した生徒は92%であった。 ・「夢や目標について考える時間や機会をつくっている」と回答した職員は96%であったが、「将来の夢や目標をもっている」と回答した生徒は69%であったため、三者面談等を活用して家庭との連携を図り、進路学習をより充実させていく必要がある。 ・行事ごとの成果と反省を記述させ、自分自身の行動の履歴をふりかえることができた。	B	・「将来の夢や希望を持っている」と回答した生徒は69%、保護者は67%となっていたため、キャリア教育の充実を図っていく必要がある。 ・教師と生徒の関係性が良好であると、諸行事を通して感じる。 ・「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と92%の生徒が肯定的な回答をしており、学校の自己肯定感を高める取組はよいと思う。今後も続けてほしい。
●健康・体つくり	●「運動習慣の改善や定着化」 ●「安全に関する資質・能力の育成」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上 ●生徒の交通事故を0（ゼロ）にする。	・生徒の規律正しい生活や健やかな成長のために、部活動の休養日や練習時間のバランスを適切に設定する。 ・防犯教室、交通安全教室を開催し、生徒の安全に対する意識を高める。 ・登校時や下校時に交通指導を行い、交通ルールやマナーを身に付けさせる。 ・校外における危険箇所等について、PTAや地域住民と情報を共有し、生徒への指導に役立てる。	B	・部活動の休養日や練習時間は適切に設定されており、運動部所属の生徒はおおむね目標を達成している。運動部以外の生徒は個人差がある。 ・交通安全については生徒指導朝会や帰りの放送時に随時指導を行い生徒の安全意識の向上に努めた。 ・交通事故が数件あったため、校区内外の危険個所についてもPTAと連携し事故防止に取り組む必要がある。 ・防犯教室10/29薬物乱用防止教育12/3防煙教室12/5を行い、生徒の健康・安全に対する意識を高めることができている。	B	・運動部に所属していない生徒にとっては難しい目標だったと思うが、努力をしていると思う。 ・1週間で420分以上の運動は、部活動や社会体育に所属していない生徒にとっては、ハードルが高すぎるのではと感じた。 ・生徒の下校状況を時折見ているとヘルメットの着用及び交通ルールを遵守している生徒が多い。 ・自転車の交通マナーが守れていない生徒がおり、交通ルールやマナーについて生徒の意識を高める取組が必要である。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・学校行事や会議等の随時見直し及び職員間の共通理解・共通実践を図ることで，「チーム城東」として協調・協働する職員体制を確立させ、業務改善を図る。 ・県下一斉部活動休養日（月の第3日曜日）と各部活動ごとに週2回の休養日を徹底する。	A	・時間外在校等時間の上限（月45時間以内）を遵守する職員は62.3%であった。学校行事が重なる月は上限を超える職員もいるが、その他の月で削減が進んだ。 ・すべての部活動できちんと実施できており、活動と休養をバランス良く行えている。アンケートで「生徒と向き合う時間が増えた」と回答した職員86%、「部活動の計画的な練習日程や休養日の設定を行っている」と回答した職員93%であった。	A	・働き方改革で改善できているところは評価できるが、今後も業務のスマート化や業務内容の精選など、継続して取り組むべきだと思う。 ・部活動休養日は意識して取り組んでいると思う。
●特別支援教育の充実	○教室環境整備や学習指導に特別支援教育の視点を取り入れた取組の実践	○環境整備や学習指導の工夫を行ったと思うと回答した教師85%以上	・特別支援教育の推進を図る職員研修の実施。 ・学年部会や特別支援学級部会での合理的配慮の検討と共通理解を行う。 ・エリアリーダーの積極的活用 ・校内研修究会において、学習目標・学習の流れの提示についての提案を行い、全職員で実践していく。	A	・アンケートで「ユニバーサルデザインを意識した教室環境づくりに取り組んだ」と回答した職員は93%であった。学校全体で、特別支援教育の視点を取り入れた学習環境づくりの取組に努めることができた。 ・学習目標・学習の流れの提示の実践について校内研修で提案した。アンケートで「生徒が見通しをもって取り組むことができるように工夫を行っている」と回答した職員97%であった。	A	・教室の前面掲示の簡素化、整理された教室環境を見て、学校はユニバーサルデザインを意識した教室環境づくりに取り組んでいると感じる。 ・教室や廊下等の掲示物等、よく整理されており、とてもよかった。 ・全教員が意識して取り組むことができるまで、今の取組を継続して行ってほしい。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学力の向上、心の教育について、設定した成果目標をおおむね達成することができた。「学校が楽しい」「自分のよいところが認められている」の項目では、肯定的な回答が９０%以上で、生徒の自己肯定感を高めるための取組が展開できていると考える。今後も全職員で、生徒の自己肯定感、自己有用感を高める教育活動に取り組んでいきたい。 ・学力向上においては、校内研究会、研究授業等を通して、全教員で授業改善に取り組むことができた。生徒の授業に対する取り組む意識も高まっている。しかし、家庭学習の習慣化が課題となっているため、来年度は学習習慣の定着に向けた取組を進める必要がある。 ・生徒が夢や目標をもち、実現に向けて意欲的に取り組もうとする教育活動については、生徒の進路に対する意識を高めるために、家庭と連携して、進路・キャリア教育の充実を図っていきたい。 ・アンケート結果から、各評価項目において成果が出ていると考えられる。来年度も家庭や地域と課題を共有し、連携を強化して学校教育活動を進めていきたい。